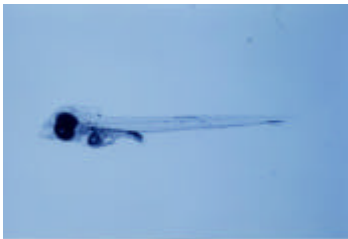
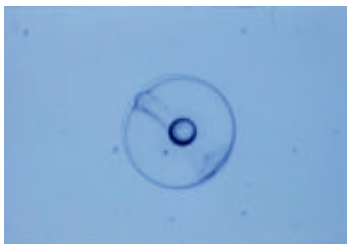


# - クロマグロの資源増殖に関する生物・生化学的研究 -

研究代表者：熊井英水（近畿大学農学部教授）



研究の概要（平成 14～16 年）



- ・卵・精子の成熟過程
- ・精子の凍結保存
- ・産卵環境
- ・ホルモン催熟

成熟産卵  
促進

- ・内分泌器官の個体発生と  
ホルモン
- ・高エネルギー化合物
- ・疾病の発生と治療
- ・共喰の発生と給餌方法

初期発育  
種苗生産

- ・摂餌刺激物質
- ・代謝酵素活性
- ・飼料の物性と形状

栄養要求  
飼料開発

種苗量産  
資源増殖

本邦におけるクロマグロ研究の発信基地である、近畿大学水産研究所大島実験場を拠点として、各分野を代表する研究者が複数の課題に取り組み、資源増殖に関する研究を精力的かつ効果的に進める。

本研究期間で'96 および'98 に人工生産したクロマグロが自然産卵すれば、クロマグロの完全養殖に成功したことになり、世界で最初の快挙となる。